

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2014年5月



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2014年5月1日発行 通巻253(毎月1回発行)

天候の変わりやすい季節

準備万端で入山しよう！

5月号 目次

・目次	2
・花博士の花便り	3
・第2回県連理事会報告	4
・マチガ沢雪上講習会報告	6
・〃	7
・〃	8
・救助隊訓練報告	9
・会山行報告・谷川岳	11
・会山行報告・両神山	12
・自然保護委員会リレーエッセイ	14
・初級登山講習会	15
・「ちば労山ゆう」通常総会報告	16
・県連便り	19
・5月・6月予定表	20

表紙説明

4月5日（土）マチガ沢において「雪上訓練」が開催された。
毎年、年度始めに教育遭対委員会主管で実施されている、県連としては
唯一の雪上訓練である。

次年度も開催されると思います。ぜひ、参加してレベルアップして、
雪山を楽しんでください。

今月号に、講習会報告を掲載しましたので、参考にして下さい。

——編集者——

花博士の花便り

2014年5月

ハイキングサークル 中原 紀代治

4月14日に新年度の最初の里山歩きに行きました。目的は、梨の花と植物観察の一宮から軍荼利山です。朝から雨でしたが、写真を撮りたいので出かけました。駅から7名で歩きました。玉前神社にお参りここでは、県の木のエヌマキの大木が10数本やイスノキ、イチョウ、クスなど樹木が凄いでした。民家が点在する田園では、お目当ての **梨の花** が満開でした。梨の品種は、違っていても花はあまり変わらない様です。昔は二十世紀ナシが有名で原木は松戸に有る様ですが、今は、改良種の幸水・豊水・長十郎など色々な品種が有ります。特に千葉県は和梨の生産量は日本一です。ブドウ棚みたいに枝を広げて、風害や日照、収穫しやすい栽培方法で花が白い絨毯の様に咲いていました。ゆっくり歩くと野草や樹木の花が目につきます。シャク、シャガ、ホタルカズラ、ウラシマソウ、ムラサキケマン、樹木では、ニワトコ、ハナモモ、スモモ、シジミバナ、サルトリイバラ、クロモジ、ウワミズザクラ、アオキ、アケビ、ミツバアケビなどが、庭先や里山に咲いていました。



梨の花



クロモジの花



アケビ 花



イスノキ

今月の巨木は、 玉前神社の“なんじゃもんじゃ”イスノキ

イスノキは、関東では珍しいのでナンジャモンジャらしい。鹿児島では、トッコ（フクロウ）の木と呼んで居ました、この木に出来る大な“虫えい”に穴をあけて笛をつくり！ホーホー！と鳴らすとフクロウの鳴き声になるからです、子供の頃を思い出しました。

2014 年度第 2 回理事会報告

理事長 吉田 哲治

■開催日時:2014 年 4 月 17 日(木)19:10～

■開催場所:船橋市西部公民館

■出席:ちば山の会、茂原道標山の会、船橋勤労者山の会、松戸山の会、東葛山の会、山の会らんたん、、千葉民医連山を歩こう会、山の会「岳樺クラブ」、かがりび山の会、ふわくハイキングサークル、市川山の会、シリウス山の会、自然保護委員長、教育遭難対策委員長、ハイキング委員長、救助隊、会長、理事長、副理事長、会計(松戸山翠会理事兼任)

以上 20 名

■配布資料

- ・ 日本勤労者山岳連盟第 31 回総会 決議・決定集
- ・ マチガ沢雪技報告/初級登山講習案内(案)
- ・ 第 19 回 足尾春の植樹デー案内

1. 委員会・救助隊報告

＊教育遭難対策委員会(岡田)

- ・4 月 5 日(土)の雪上技術講習会報告 参加 8 回 47 名

残雪多く雪技には良好な状態であった。救助隊による登攀システムのデモが初級参加者には分かりやすいと好評であった。

- ・初級登山講習 5/31～6/1 三つ峠を中心に実施予定

内容:山の歩行、救急法、ツェルトの使用方法、筋力トレ、セルフレスキュー等

＊ハイキング委員会(桑原)

- ・17 回ウィークデー山行 6 月 5 日(木)場所:湯の丸山 募集中 5/8 下見予定

＊自然保護委員会(菅井)

- ・各会でクリーンハイクの計画を上げてもらいたい

- ・4 月 26、27 日 足尾植樹祭

- ・奈良の若草山モノレール反対の署名に取り組む

＊組織委員会(広木)

- ・4/3 委員会開催 各会の現状を報告して欲しい

＊女性委員会(広木)

- ・10 月か 11 月にワンコイン講習を実施予定

＊救助隊(関口)

- ・4/20 丹沢・モミソ懸垂岩にて訓練予定

- ・2 月に開催した関東ブロック深雪訓練の会計決算報告が出ていないので、早急に報告してもらいたい(会長より)

2. 災害支援報告(吉田)

- ・4 月 12～13(日) 牡鹿給分浜 ワカメ収穫の手伝い 37 名参加

5 月からは谷川浜のホヤ関係の作業に

- ・4 月 24 日(木)NPO ちば労山ゆう定期総会 船橋西部公民館にて 19 時より

5. 50 周年記念行事

- ・総会後進展なし。6 月には実行委員会を立ち上げたい

6. 事務局不在への対応

- ・3 年間、事務局が不在の状態が続いている。様々な事務処理の他、各会とのパイプ役となる重要な職務であるが、前向きな意見はでなかった。
- ・県連HPはこれまでの担当者が諸事情によりなかなか更新ができなかったもので、新しい業者との契約が完了した。
- ・4月より、随時更新して行きたい。ホームページに関する意見・問い合わせをお願いします。

■今後の理事会日程について

5 月 22 日 (木) 場所:西部公民館 時間:19 時より

以上

ホームページ部会よりのお知らせ

前年度は、管理者の健康上の問題でホームページの管理・更新が出来ませんでした。今回、岳樺クラブ・会員の紹介で、新しい管理者と契約が出来ました。会・クラブ・会員個々と県連のコミュニケーションの大きな柱として、県連盟活動の強力な武器として機能させて行きたい。

組織強化・委員会活動・各種講習会の案内・報告等を、各会・クラブへの情報提供として活用していただきたい。現在は県連盟からの一方通行ですが、会・クラブの情報、組織強化活動等も掲載したい。

県連盟ホームページへの意見・問い合わせ、各会・クラブのホームページに関する質問などをお願いします。

問い合わせ・質問等は、県連ホームページ「事務局への問い合わせ」まで

千葉県連「50周年記念行事」

千葉県連盟は、2016年に創立50周年を迎えます。

総会で、実行委員会を立ち上げて取り込んで行く事を確認しました。6月中旬に「第一回実行委員会」を開催する予定です。実行委員会に、各会・クラブより大勢の参加をお願いします。

「50年間のあゆみ」・千葉の山・沢の紹介など、後世に伝える資料としてまとめることも確認しましたが、具体案は出ていません。これらに関する資料を所有している、会・クラブからの提供をおねがいします。

問い合わせ・送付先は：千葉県連盟・広木まで連絡を御願います。

マチガ沢雪上技術講習の報告

教育遭難対策委員会

去る4月5日、谷川岳／マチガ沢出合にて雪上技術講習を行いました。
昨年も計画したのですが、荒天予想で止むなく中止した為、2年越しの雪技となりました。当日朝より曇りがちの天候の為、午前：雪技 午後：救助隊ロープワークの当初予定を繰り上げ変更して、13時に無事終了した。
概要は下記の通りです。

- 1) 主管：ちば山の会 協力：船橋勤労者山の会、県連救助隊
- 2) 参加：ちば山の会 山の会岳樺クラブ 千葉こまくさハイキングクラブ
松戸山の会 松戸山翠会 船橋勤労者山の会 まつど遠足クラブ
東葛山の会 計8会47名
- 3) 内容：キックステップ（坪足 アイゼン）滑落停止 雪面での確保技術（アックスビレイ） ロープワーク等

残雪は充分に多く、4班構成（4面使用）での各班毎の繰り返し実技を行ったが、スコップ等利用による支点工作とビレイ経験が新鮮だったとの感想に加えて、救助隊による登攀システムのデモンストレーションが初級参加者には判り易いと好評であった。
総じて、来年以降も雪技講習の継続実施が必要と判断されます。

以上



マチガ沢県連雪上技術訓練

報告者：県連救助隊

1. 日時：2014年4月5日（土）10：00～13：00
2. 場所：谷川岳・マチガ沢出合
3. 講師/県連救助隊員：吉田副隊長、徳永副隊長、神山副隊長、渡辺（理）、住田、古畑、井本

4. 講習内容：

- （1）雪上での二支点工作（スノーバー、ピッケル、ショベル、デッドマン等を使用した）
（写真 2）

【注意点】

- a) 埋設方法：スリングのかけ方、向き、特に支点との開き角度 $30^{\circ} \sim 60^{\circ}$ くらいにして、
角度が開き過ぎるとロープに負担がかかり強度不足となります）
- b) 実際にロープをつないで支点外れやズレがないか強度を確認のこと。
- c) 積雪に雪質によっても支点強度は異なります。

- （2）メインロープセルフ

【注意点】

- a) 確保時などメインロープを使用して、セルフビレーを必ず・速やかに行うこと（掛け替え数が減るため）。

- （3）マルチピッチ（ツルベ式）

- a) 実演デモ グリップビレーによる滑落停止（写真 1）

- （4）ヒトココの紹介（製品情報 <http://www.authjapan.com/>）

【特長】

- a) 従来の雪崩ビーコンとの互換性はありません。ヒトココは特定（親機・子機）の ID をサーチします。
- b) 行方不明者を「距離と方向」で表示・誘導します。
- c) 電波飛距離が広範囲（100m～5km）
- d) 活用シーンとして、山岳、日常生活（ショッピング、遊園地・公園、駐車場・車探し、高齢者の見守り）などが考えられます。

- （5）その他

各講習については、短時間でしたが参加団体各チームが30分程度（全4チームに分かれ）、講習・解説・注意点などをさせていただきました。皆さん大変熱心に聴講していただき、また実習にも積極的に参加いただきました。本当にありがとうございました。各会に持ち寄り、山での事故ゼロ作戦の一助にいただければ幸いです。

《お願い》各講習技術内容は、各会・各自の繰り返しトレーニング、習熟し安全面に配慮してくれぐれも、事故のないようご留意ください。



写真 1. グリップビレーと滑落停止



写真 2. 二支点工作

以上

谷川岳県連雪上講習会に参加して

松戸山の会 石塚 倫康

- 場所：谷川岳 マチガ沢
- 時期：2014 年4 月5 日（土）
- 参加者 ◎大越 直樹、渡辺 敦子、具志堅 浩俊、米田 浩貴、米田真伊子、石塚倫康（記）

久しぶりの雪山登山は、県連（ちば山主管）が主催する雪上講習会に参加してきました。

当日、マチガ沢出会い（訓練場）に各会ごとに7 時に集合でした。山岳指導センターを過ぎた辺りで米田夫妻と合流し今回のメンバーが揃いました。アイゼンを着け時間も押していたので、大越隊長を先頭にペースUP。歩きだしてすぐにアイゼンが片方落ちているのを具志堅さんが気付き、隊長～ アイゼン外れてますよ～！！ 右のアイゼンが～！。

ようやくマチガ沢に着き、班別に指導を受けました。松戸は2 班で橋本さん（ちば山の会）にご指導いただきました。



<内容>

キックステップで登り、下り、トラバース、ピッケルの使い方、滑落防止、スタンディング、アックスビレイ、肩がらみ、腰がらみ、ビレイポイントの作り方、自己ビレイ、ロープの使い方・結び方、アップザイレン、救助隊のデモなど、朝7 時～13 時までみっちりご指導いただきました。

橋本さん（ちば山の会）には感謝しています。ありがとうございました。

しかし、寒さのせいで後半先輩方（松戸の）はおかしくなっていました（笑）ロープワークなどは、雪山に限らず必要な知識なので今後も復習していきたいと思いました。また、訓練中にヒヤリハットも確認できた事が良かったです。



<ヒヤリハット>

・スタンディングアックスビレイは、ピッケルをしっかりと固定しアックスの上に足を乗せ、体重をかける事！ アックスを踏まないと2 人とも滑落します。

・肩がらみ、腰がらみなど摩擦が大きいので、それ以外の部位には使用しないこと。

など参考になりました。そして、帰路でも隊長のアイゼン（左）が外れました。

もしSL だったら翌日の谷川岳はどうなったんだろう？（笑）

来年もこのような講習会があれば積極的に参加したいとおもいました。

救助隊自主沢登り・レスキュー訓練（４月度の報告）



1. 日時 2014年4月19日～20日

2. 場所 丹沢・モミソ沢、懸垂岩

3. メンバー 12名 （東葛）吉田副隊長、（船山）関口副隊長、
（岳樺）徳永副隊長・古畑（記録）、（ちば山）神山副隊長・渡辺（理）・住田（記録）・岩元、
（松戸）今村・小林、（こまくさ）角掛、（まつど遠足）西村

4. 内容

（１）4/19(土) 沢登り訓練

9:00 モミソ入渓点手前広場集合～10:00 モミソ沢入渓
（沢トレ開始）～12:30 大滝終了点折り返し～15:30 下山
～16:00 林道終点駐車場にてテント泊（反省会）

[訓練内容]

- ・ 沢遡行（歩行技術、お助け紐、フィックスロープ）
- ・ 沢下降（クライムダウン、支点工作、懸垂下降）

（２）4/20(日) レスキュー訓練

9:30 モミソ入渓点手前広場～10:00 モミソ懸垂岩（訓練
開始）～14:00 訓練終了

[訓練内容]

- ・ レスキューデバイス（ストップ等）を使った懸垂下降と登り返し
- ・ 懸垂下降スタンダード
- ・ 懸垂下降からの登り返し（切り替え方法）
- ・ 引き揚げシステム（1/3, 1/5）
- ・ ATC（ルベルソ）によるフォロー確保応用（ビナ２枚使い）





スタティックロープでの登り返し
(ストップ、ベーシック等)



レスキューデイ (ストップ)

5. 隊員感想

実際に使う機会が少ないスタティックスロープやレスキューデバイスでの訓練も我々救助隊の課題となっている第三次捜索活動に繋がる。隊員各自が積極的にトレーニングをできたことや自分のツールと救助隊装備との相性・使い勝手などの確認もできとても有意義でした。また、引き上げシステムでは、プーリーの効果を実感した。2年ぶりの沢登りと登攀訓練でしたが、モミソ沢と懸垂岩とも初級?コースで、比較的安心して訓練できました。沢下りも含め、実践的でよかったと思います。人やヒルも少なく、場所としても、また時間配分も適切だったと思いました。

まだまだ反復訓練が必要だと痛感しました。そして、訓練終了後のキャンプ・懇親会では、贅沢な焚火と持ち寄った酒の肴などどれもおいしく・絶品でした。

6. 総括：吉田副隊長

救助隊4月訓練は、基本的なロープワークからレスキュー機器の取り扱いをテーマに行いました。今年の2月関東ブロックが千葉主管の為、去年は準備などで忙しくこのような訓練がなかなか行えなかったのが、隊員の足並みをそろえる意味でも行えて有意義だった。

初日のモミソ沢の遡行及び下降の際に確保や懸垂下降を多く取り入れた。隊員全員沢は1年ぶりなので程よく緊張感もあって良かったと思います。2日目懸垂岩での訓練も参加メンバー全員が同じ訓練を全てこなせた事が良かったと思います。

2日間通しての反省点は、まだまだ訓練時間が足りないと感じました。やはり、1年数回では身につかないので各自でも机上学習や現地で繰り返しの訓練が大事だと考えます。

今年は、もう一步踏み込み県内の山の遭難を想定した総合演習を試みたいと救助隊では企画中です。また、チームワークの良い救助隊の仲間なので、今後とも学習会を重ねながら、各自が力をつけていきたいと思っています。

『救助隊は、いつでも隊員募集中です。レスキュー訓練（ロープワーク、救急法、搬送法）など興味のある方、是非入隊して一緒に活動しましょう！

経験がなくても大丈夫です』

以上

谷川岳 山頂でピッケルかざして

松戸山の会 具志堅 浩俊

日 程：2014 年 4 月 6 日（日）

参加者：CL 大越直樹、SL 渡辺敦子、石塚倫康、秋山淳一、具志堅浩俊（記）

コースタイム：谷川ロープウェイ→天神平駅 7 時 50 分/8 時 00 分→熊穴沢小屋 9 時 00 分/9 時 15 分→トマの耳 10 時 40 分/10 時 45 分→オキの耳 10 時 55 分/11 時 00 分→天神平駅 12 時 35 分

「土合駅」、なんとも言えない響きがある。山岳小説や映画によく登場する駅だ。今宵の寝床となったが、構内は大勢の登山客でにぎわっていた。私たちもそうであるが、ほとんどが千葉県連主催の雪上技術訓練の参加者であろう。私にとって、明日はいよいよ本格的な雪山登山である。雪上訓練翌日の実践で大丈夫かな？

翌朝、天気は晴れ。天神平駅を出てアイゼンを装着する。何度も練習をしてきたのだが、手間取ってしまった。新米なので隊列の 2 番手に入れてもらう。先頭は隊長の大越さんだ。天神尾根までいきなりの急登であったが、すでに階段状のステップが出来上がっていて案外、歩きやすい。

尾根筋への最後の登りにさしかかった時、後方から「大越さん、オーバーズボンがずれ落ちてる！」「半ケツ！」「腰パン、かっこいい！」の声。大越さん曰く「どおりで今日は足が上がりえないーと思ってたんだ」と、一同爆笑でした。

登山者の中にはスキーヤーやスノーボーダーが多くいた。メンバーの石塚さんも谷川岳はスノーボードを担いで何度も登っているとのこと。肩の小屋から天神沢を通って麓のロープウェイ駅まで滑るそうだ。

標高 1700m 辺りから最後の急登が始まる。気温が低いせいか、雪質がパウダー状に変わりステップが崩れて、足がずれ落ちてしまう。すぐ後ろの石塚さんから「具志堅さん、キックステップで」とのアドバイスを受ける。なるほど安定してきた。肩の小屋近くになると強い北風と吹雪で視界は時に 10m ほどになった。トレースも消えて登山道が分かりにくい。

10 時 40 分山頂到着。やったぞーとピッケルをかざして、写真に納まる。実は今回の山行、このピッケルのために参加を決めたのだった。雪山の装備を揃えたのだが、わかんたアイゼンは 2 月に降った大雪の際に、自宅周辺を試し履きした。しかしさすがにピッケルだけは、道路で刺す度胸はなかったので、彼はまだ雪を知らない。ピッケルが俺に言う。「なんだ、俺は一度、家庭菜園で穴を掘っただけで終わりかよ」と詰め寄られたのである。

登山道で一か所だけ両手を使う難所がある。下山方向ではよじ登ることになるのだが、そこでピッケルのピックを雪面に突き立て、はい上がってみた。アイスクライミング風で、つい顔がゆるんでしまった。

オキノ耳に向かう若手と別れ、隊長と私は肩の小屋で待つことにした。ところが、小屋周辺の雪田はホワイトアウト状態で視界がほとんどなく、小屋が見つからない。近くにあった標識の土台を背にして吹雪を避けながら、視界が良くなるのを待つことにした。

大越さんが言う。「具志堅くんね、こういう時はこの辺りだろうと動いてはいけない。はっきり見えるまで待つことが大事だ」

しばらくすると視界が開け、右方向に忽然と小屋が現れた。30m ほどしか離れていないのにはびっくりした。

初めての雪山でしたが、皆さんのおかげで無事に登頂できました。ありがとうございました。



トマノ耳山頂。吹雪で顔が曇ってます

新人平日山行 奥秩父両神山

松戸山の会 板谷

山行日：2014年4月10日(木)

参加者：CL 大越・SL 岩田・甲田・上田・北村・藤・保坂・水谷・板谷

コースタイム：日向大谷 9:15/9:25-R10:05/10:15-R11:10/11:20-清滝小屋 12:00/12:10-
両神神社 13:10-両神山 13:40/13:55-両神神社 14:20-R14:30/14:30-
清滝小屋 15:10/15:25-R16:10/16:20-日向大谷 17:10

費用：車使用代 331km×42円×2台 =27,804円

高速代 11,160円 合計 38,964円 一人当たり 4,300円

今回は両神山八丁尾根コースの企画で、新人平日山行でありながら、ほとんどが経験つまった方々でしたので、岩場の経験を積むことができると楽しみにしていました。しかし入口までの道路が雪のため閉鎖されており、急遽二子山登山口まで戻り相談。

①岩場の急斜面のある二子山、②日向大谷からの両神山を目指すかの二者択一。岩場未経験の私がいる為に、二子山は断念。鎖場を楽しみにしていた方々には大変申し訳なく思っています。

いよいよ登山開始。天気は良好、ぽかぽかと春らしい。ここは両神神社の表参道と言う事で、鳥居をぬけて山道に入ると、仏像や石碑等が目につきます。会所からは薄川の沢伝いに水音を聞きながら登って行きます。残雪が多く、川の上にも雪のトンネルが続いていました。登りも急になり、がまんの登りですが、足元には春の兆し、可憐なアズマイチゲやネコメソウが咲き始め、沢山のハシリドコロがニョキニョキと背を伸ばし紫色の大きなつぼみを付けていました。



えっちら、おっちら！八海山、弘法ノ井戸を通り過ぎれば、見えてきました、清滝小屋。立派なログハウスの清滝小屋は、今は避難小屋として使われているとのこと。



ここで、屋根付きのベンチもありゆっくり昼食をとりたいたところでしたが、まだまだ先があるのでほどほどのところで出発です。ここから先は、鎖場も出てきて、あと少しと言うところで、雪が多く、凍っている所もあり、アイゼンをつけての登山になりました。

岩場でアイゼン！慎重に！！

両神神社の狛犬は狼！それを見ながら、一度下り、登り返せば両神山の頂上です。

頂上は岩場であまり広くはなく、石祠が祀られていました。

「三角点は二等か！」と、どなたかの声。薄曇りの為、景色は見えず残念。

記念写真を取り早々に下山開始となりました。



鎖場の下りは余計慎重に！アイゼンを付けた岩場は足元が特に不安定。アイゼンを外してから少し雪の多い所では滑りやすいし、枯れ葉に隠れた石に足はとられるし、集中して歩かないといけないので、大変(@_@;)。

清滝小屋に着いたころから雨がパラパラ、本振りになると嫌なので、雨具を着て準備万端。と思いきやまた空が明るくなってきた、幸いにも雨にも合わず、それから2時間、最後の力を振り絞って歩くのみ。民家の屋根が見えてホッとしました。

時間もかかり登りごたえのある両神山！無事登れたので、うれしく思っています。

運転をして下さったU田さん、Fさん(ハーレム状態でご迷惑おかけしました)、同行された皆様、ありがとうございました。

板谷記

ちばニュース 投稿に関するお願い

ちばニュースについて、報告とお願いをします。

ちばニュースは、表紙にもありますが「会員と千葉県連盟をつなぐ」を目標に発行されています。山の会の「機関紙」らしく、山行報告・自然保護に関する事を中心にしてしています。会員の皆さんからの投稿を中心にして、県連からの報告などは極力少なくしています。

全会、満弁遍なく載せて行きたいので、各会からの投稿をお願いします。

投稿でお願いしたい事

- 1、 投稿締切りは： 毎月25日を目標に（余裕を持って編集したいので）
- 2、 原稿は： 余白 上・下・右・左 25mm 字の大きさ 12p
字数が多くなると、10.5pとか11pは困ります。
- 3、 写真は： あまり大きいと重くなり、印刷が大変になります。
- 4、 PDFは： 絶対ダメです。
- 5、 最後に一言： 一緒にやってくれる人、高額で募集しています。

◆ 連絡先・送り先：機関紙委員会是一人です。編集の受け先、委員会のメーリングもあるのですが、
機関紙委員会が確立するまでは、広木までお願いします。

Eメール：danphiro@zpost.plala.or.jp



花トレッキング
弥彦山. 角田山報告



自然保護委員
千葉こまくさHC 荻野 孝

一等三角点のある越後
一宮の弥彦神社を擁する
雪割草の弥彦山
花の里山と呼ばれるに
ふさわしい角田山
春の花の季節に
千葉こまくさ.HC の仲間達
9名で雪国ならではの特徵
ある花々を堪能しながら
楽しく歩いて来ました。

日程 3月29日～3月30日

山行形態 個人泊山行

第一日目 弥彦山

第二日目 角田山



弥彦山 3月29日(晴)

表登山道から登り始めると直ぐにキクザキイチゲ二合目近辺からキクバオウレン
三合目辺りよりカタクリ、ユキワリソウの群生が見え始める初めてお目にかかれた
コシノコバイモにはつつい見とれてフオットタイム五合目にて一気に展望が
開けて越後平野、日本海の展望に感激と大満足、カタクリの群生等々満喫して
山頂へ、暫し展望を楽しむ、名残惜しみながら表登山口へ戻り宿泊先の寺泊へ向かう。

角田山 3月30日(小雨)

花の多さで知られる桜尾根から山頂をめざし五ヶ峠分岐から角田岬灯台に下る
コースを選定し歩いてみました、登山口から少し登ると雪割草の群生が迎えてくれ
カタクリを始め多種、多様の綺麗に見事な群生が稜線を彩りさすが花の名山です
今回花は見られませんでしたでしたがトキワイカリソウやスカシユリも沢山咲くようです

角田山では地形図には載っているけど新潟市の登山マップには載っていない桜尾根
私有地の登山道を歩きました、里山の大部分を占める私有地において、地域の方々
地元山岳会、民間団体が主体的な保全活動を進める現況、そのすべての人の想いを
私達登山者が次世代に残せる行動をし、想いを共有していく事が大切に思います。
県連盟の自然保護活動に於いてもしっかり啓蒙活動し機会あるごとに現状を把握
して今後の自然保護活動に取り組んで行きたいと痛感いたしました。

県連「初級登山講習」の案内

県連教育遭難対策委員会

近年の県連発生事故では、高齢者の転倒が増加している現状を踏まえ、また各会で初心・初級登山者が増加傾向に有る事を考慮して、事故防止を図るべく、下記の内容で実技講習を行います。 各会よりの積極的な参加を望みます。

- 1) 日程：5/31(土)－6/1
- 2) 集合：三ッ峠山表登山道「いこいの森」駐車場 5/31 9:00
- 3) 山域：初日 御坂山塊・三ッ峠山表登山道 9:00～15:00
講習が主目的の為、登高は屏風岩まで。
2日 本栖湖キャンプ場付近 8:00～12:00
- 4) 宿泊：本栖湖キャンプ場 大型ロッジ<26畳 予約済み>
所在地：添付参照。http://www.motosuko-camp.com/2_info.htm
入浴：三ッ峠グリーンセンター 15:30～16:30
食事／懇親会：三ッ峠より移動後に 18:00～22:00
- 5) 実施内容
初日 ①登山前と下山後のストレッチ 9:00～
②読図
③ストック歩行
④登下降技術
⑤岩場の通過
⑥ツェルトビバーク
⑦現場での応急手当と簡単な搬出 ～15:00
2日 ⑧筋力トレ講習 8:00～10:00
⑨救急法(テーピング他) 10:00～11:00
⑩セルフレスキュー(7点セット使用他) 11:00～12:00
番外：終了後(午後)に時間の許す会は、各会単位で竜ヶ岳ハイ
ク(所要時間2H程)に行く事も可(任意)。
- 6) 交通：各会毎 車等で
- 7) 実施規模：30名程度
- 8) 個人装備：雨具 ストック 行動食 シュラフ ヘッドランプ 県連7点セッ
ト<スリング長1 短2 補助ロープ10m カラビナ2 環付カラビナ1>
シルバコンパス 入浴セット テーピングテープ 三角巾
- 9) 共同装備：各会毎 ツェルト 補助ロープ<8*30m>
- 10) 参加費：2,500円/人
- 11) 食糧(夕食・朝食)：各会毎に。
- 12) 申し込み先/期日：各会理事より5/18までに 遭対委員会 大越へ
<ogoshi-1947@koalanet.ne.jp 047-345-3622> 申込書は添付参照。
- 13) 各会責任者打ち合わせ：5/23(金)19:30～県連事務所にて
- 14) 雨天：決行 ロッジ内での机上講習を主体に行う。
- 15) その他問合せ先：遭対委員会 岡田 ken-ichi@f4.dion.ne.jp 043-271-4704

第2期 NPO 法人ちば労山ゆう通常総会報告

理事長 吉田哲治

ちば労山ゆうの第2回目の通常総会が船橋市において開催されました。審議内容については次頁の議事録を参照していただき、私よりはこれまでの活動と、総会において決定された今年度の活動方針に関しまして、報告いたします。

● 2013 年度の活動

1. 会員数

正会員 108 名 賛助会員 127 名

2. 現地災害支援

8回 延べ人数 165 名

前年度からの牡鹿半島での漁業支援を継続した。一部、福島での活動も実施した。

牡鹿へ支援に行く毎に、道は良くなり海には漁船や筏の数も増えて、少しずつではあるが復旧へ向かっている様子がうかがえるのはうれしいことであった。しかしながら、がれきが撤去された跡は更地になったままであり、初めてこの地を訪れたものは、そこに幾多の生活、営みがあったことなど想像もできないであろう。被災地・被災者の生活再建は置き去りにされたままであり、復旧への道程は道半ばと言わざるを得ない。

参加の延べ人数は前年度比 13%減であるが、震災後 3 年目を迎え全国的なボランティアの大幅な減少からするとかなり健闘していると言える。

3. 他の支援活動

- ・5月18日～19日（日） 戸隠コンサート&ハイキング 参加：34 名
- ・10月19日～20日（日） 東北支援バスツアー 参加：32 名

4. 事業活動

気仙沼とろろこんぶ・わかめ等斡旋販売

5. 財政補助

4月より高速道路の無料化措置も全面的に無くなり、それを補うものとして高速代の補助を行った。さらには、3月より交通費の負担を一人当たり一律 4,000 円として個人負担の軽減を図った。

食事の補助は継続した（朝・夕の食事 500 円／人自己負担、それを超える分の補助）。

● 2014 年度活動方針

1. 現地支援

牡鹿における漁業支援を継続する。福島への支援も増やしていく。

支援の日程

5月17日（土）～18日（日）	夜行1泊2日（牡鹿）
6月14日（土）～15日（日）	夜行1泊2日（牡鹿）
7月12日（土）～13日（月）	夜行1泊2日（牡鹿）
8月23日（土）～24日（日）	夜行1泊2日（福島）
9月13日（土）～15日（月）	夜行2泊3日（牡鹿）
10月18日（土）～19日（日）	夜行1泊2日（牡鹿）
11月15日（土）～16日（日）	夜行1泊2日（牡鹿）

12月6日(土)～7日(日) 夜行1泊2日(福島)
3月14日(土)～15日(日) 夜行1泊2日(牡鹿)

2. 他の現地支援

- ・ 東北支援バスツアー 11月15日～16日(日) 東葛発着
- ・ 他団体との提携も視野に入れていく

3. 事業活動

- ・ 被災地の産直品販売(気仙沼とろろこんぶなど)の継続

4. 財政補助

- ・ 現地支援の際の食事代補助継続(朝・夕の食事500円/人自己負担、それを超える分の補助)
- ・ 交通費補助(4,000円/人自己負担、それを超える分の補助) — 乗合の車両を対象とする。他は役員会にて検討。

ちば労山ゆう通常総会議事録

八角 洋(ちば山の会)

- 日時：2014年4月24日(木) 19:00
- 場所：船橋市西部公民館第4会議室

1. 議運開会宣言 事務局長 角掛(こまくさ)
2. 理事長あいさつ 吉田(船山)
3. 定足数確認 正会員108名 出席27名 委任状55名
4. 議長・書記選出 議長 鶴田(ちば山) 書記 八角(ちば山)
5. 2013年度活動報告 (会員数・活動報告)吉田
(産直品販売活動)広木(ちば山)
6. 2013年度会計決算報告 佐藤(ふわく)
7. 2013年度会計決算についての監査報告 平井(かがりび)

質疑応答

(活動方針について)

- ・ 活動方針が毎年同じだと下火になる。アイディア出すべきだ。あまり関わってこなかったが、菜の花を植えるとか牡鹿半島のルート作りハイキングはどうか。千葉県民の足跡を残すべきだ。(辻本 ちば山)
- ・ 「ゆう」の中にも、水仙を植えるなど話題が上がっている。それをどのようにやるかが問題だ。(吉田)
- ・ 花一杯運動で会員を増やせるのではないか。手軽にできることを増やすべきではないか。(辻本)
- ・ 例えば、どんなことができるか。花の話は以前に検討した。牡鹿半島の景色は

いいが、ルート作りは難しい。継続的にできることが大事だ。(長池 ちば山)

- ・菜の花だと千葉県を動かすことができるのではないか。(辻本)
 - ・そんな話しは、現地の漁師さんの協力がないと難しい。(佐藤)
 - ・房総半島でも同じことをやっているが、現状は同じ人がやっている。(田中 ふわく)
 - ・水仙は千葉の花なので、うまく球根を確保できないか。(佐藤)
 - ・バスツアーの際にそれも考えてもいいのではないか。(平井)
 - ・農産物、花などは、勝手にやってはいけないのではないか、現地と相談することが大切だ。(小渕)
 - ・仕事の希望を聞いて、お手伝いする。現地の要望を聞いてやっていかなければならない。(平井)
- (広報について)
- ・会員、賛助会員が増えていることは良いことだが、継続して頂くため、メールで連絡できない人や賛助会員への広報はどうなっているか。(岡田 船山)
 - ・きちんと情報を伝えている。(佐藤)
 - ・県連のホームページに載っている「ゆう」の写真は少し古いがどうにかならないか。(岡田)
 - ・県連のホームページは、13 年度まで担当者の健康問題でちばニュースだけ更新してきた。いま新しい管理者が見つかり運用について話し合っている。今後は県連、および「ゆう」の新しい活動を伝えることができる。運用指針に沿った情報で、どうしたら見てもらえるか、量だけでなく精査した情報を出して頂きたい。(広木)

11. 方針案・予算案の採決 賛成多数で可決
12. 役員選出
13. 議運閉会宣言 副理事長 広木

● 2014 年度役員体制

理事長	吉田	哲治 (船橋勤労者山の会)
副理事長	広木	国昭 (ちば山の会)
理事	山本	尚徳 (かがりび山の会)
同	佐藤	勝子 (ふわくハイキングサークル)
同	長池	康雄 (ちば山の会)
同	村尾	憲治 (ちば山の会)
監事	平井	昭 (かがりび山の会)
事務局長	角掛	詢子 (千葉こまくさハイキングクラブ)

以上

県連たより

県連盟連絡先

- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX: 043-306-1190
Eメール: rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR 総武線幕張本郷下車、海側 徒歩 5 分
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ
事務局への問い合わせまで
- ◎ 事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax: 043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
機関紙委員会・広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号: ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名: NPO 法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、ご意見
問い合わせなどは・広木まで

NPO 法人「ちば労山ゆう」

- ◎ 「ちば労山ゆう」への入会は
千葉県連盟ホームページから
入会出来ます。
 - ・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
 - ・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>
- ・入会情報 (4 月末)

正会員数	108 名
賛助会員数	127 名
合計	235 名

常時、会員を募集しています。
入会連絡は、上記アドレスまで！
新年度の NPO「ゆう」支援活動の
お知らせ
 - ・ 5 月 17 日 (土) ・ 18 日 (日)
 - ・ 6 月 14 日 (土) ・ 15 日 (日)

支援物資は常時販売中です。

下記アドレスに連絡を！

支援物資担当・広木までどうぞ

「おさしみわかめ」

「さしみこんぶ」

「くきわかめ」

「すき昆布」

「とろろこんぶ」

常時在庫あり、宅配相談下さい

danphiro@zpost.plala.or.jp
090-8316-2020

県 連 活 動 予 定 表

5 月	行事予定	6 月	行事予定
1 木		1 日	県連・初級講習会
2 金		2 月	
3 土		3 火	県連役員会
4 日		4 水	
5 月		5 木	ウィークデイ山行 in 湯の丸
6 火		6 金	
7 水		7 土	
8 木		8 日	
9 金		9 月	
10 土		10 火	
11 日	県連統一 クリーンハイク	11 水	
12 月	(終了後 自然保護委員会)	12 木	
13 火	県連役員会	13 金	
14 水		14 土	
15 木		15 日	
16 金		16 月	救助隊定例会
17 土	NPO支援活動	17 火	
18 日	//	18 水	
19 月	救助隊定例会	19 木	県連理事会
20 火	ハイキング委員会	20 金	
21 水		21 土	
22 木		22 日	
23 金		23 月	
24 土		24 火	
25 日		25 水	
26 月	遭対委員会・NPO役員会	26 木	県連組織委員会
27 火		27 金	
28 水		28 土	全国女性委員担当者会議
29 木	組織委員会	29 日	//
30 金		30 月	遭対委員会・NPO役員会
31 土	県連・初級講習会		

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所には常駐者はいません)

発行責任者 : 吉田 哲治 編集責任者 : 広木 国昭

問い合わせ先 : 千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ